



## 日本の緑化事情 / 緑化に防災効果が

神大震災の時には多数の地域で火災が発生し、家屋が焼失しました。しかし、ある病院で1本のオリブの木が隣家からの延焼を食い止めたというエピソードがあります。

昔から家の周りに樹を植えることは当たり前に行われていました。その理由の一つには暴風から家屋を守ることもあり、防火という意味でも行われてきたのです。

実際に二棟の木造住宅に火をつけて、間に植えた場合の延焼比較実験が行われたことがあり、間に緑化がなければ、隣家へ燃え移ってしまいましたが、植えた延焼を防いだことが確認されています。

東京都環境局では、「家の周囲に緑化を巡らす」と延焼を防ぐ効果がある」とコメントしています。

もちろん植える植物の種類にも依ります。燃えにくい品種を数種類混在させておけば、類

住宅やビルの壁面にツル植物により壁面緑化を施すと、有る程度の防火効果があり、いざというときの火災に対しても安心です。比較的に簡単に施工できる霧ヶ峰シリーズの導入をご検討されています。

## スタッフ紹介

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

昨年10月から岡山工場の技術部に務めている清原と申します。

主な業務内容は出荷前製品の検査を行っており、検査の内容を簡単に説明させていただきます。粉末状の製品をエマルジョンなど練り混ぜ、粘度を測定したり、作業性を確かめるために、鋳などを使用して実際に塗ってみたり等、普段の生活の中ではなかなか使えない道具を用いて検査を行っています。

まだ入社して日が浅く、取り扱っている製品の知識がほとんどありません。日々の業務を通して、少しずつ勉強させていただいているところです。

検査業務も製品の種類が多岐に渡り、なかなか覚えられないので、よく手が止まってしまうのですが、そんな時は近くにいる先輩方をつかまえて、質問攻めにしていただきます。先輩方が優しいので、時にはユーモアも交えて指導していただいています。

話は変わり、私の趣味の一つにDIYがあります。ここ数年で、一番大がかりだったのは、自宅の庭を砂利敷から人工芝の庭に作り変えたことです。



由に外に出ることも出なくなり、少しくも子供たちが家で過ごす時間が多くなり、家族や友達に知恵と手を借りて、整地からやり直して、試行錯誤の末、とても満足しました。それが、数年経ちました。庭が完成し、遊びに庭キャンプなど、子供たちと年間を通じて過ごせる場所になりました。DIYでした。

なかなか普通は自分でもやろうと思わない事でも、何とか出来るんじゃないかとつい興味を持ってしまいます。味をこの持ち前の行動力を上手く仕事に生かして、一日も早く会社の力になれるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いします。お気軽にいらしてください。

**DAINICHI CHEMICAL CO., LTD.**

●本社  
〒571-0030 大阪府門真市末広町 8-13  
TEL : 06-6909-6755(代) / FAX : 06-6909-6702

●東京支店  
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F  
TEL : 03-3436-3801(代) / FAX : 03-3436-3803

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。



次号も  
お楽しみに

URL : <https://dainichikasei.jp>

Vol.64

# 映画で学ぶ 環境問題

ダーク・ウォーターズ

巨大企業が恐れた男

原題 : Dark Waters

監督 : トッド・ヘインズ

脚本 : マリオ・コレア  
マシュー・マイケル・カーナハン

出演者 : マーク・ラファロ

アン・ハサウェイ

ティム・ロビンズ

上映 : 126 分

公開 : 2019 年米国



たものです。

テフロン加工といえ知らない人は、主にはフライパン・鍋や炊飯器釜にコーティングされ焦げ付きにくく油も最小限で調理出来るというある種夢の調理器具として日本国内では1960年代から徐々に浸透してきてほぼ全ての家庭にあるのでは？と思われる。

テフロン加工とは「フッ素樹脂加工」というもので、最初に開発した米国デュポン社の商標登録名です。それが全世界に広がりテフロン加工という名前が定着し

第2次世界大戦中デュポン社が核兵器を開発する過程において発見されたものとされています。1940年代後半にフライパンに加工し食材がくっつきにくく焦げにくい、油の量を少なく出来る、お手入れが比較的簡単な理由から全米で爆発的に売れて全世界に広がっていきま

このフッ素樹脂加工を生成していたデュポン社の工場が環境汚染を行っていたのを一人の弁護士が巨大企業と戦う模様が描かれたのが本作品です。これは実

話でドキュメンタリーではなく、脚色のもと映画化されています。

1998年ウエストバージニア州の農場で190頭もの牛が病死したことから、酪農家から依頼を受けた企業の顧問弁護士に依頼します。企業顧問弁護士は本来はこういう訴訟を受ける側なのですが、酪農家が祖母の知り合いということから話を聞くことにします。

入念に調べてみると数十年間に亘り発がん性のある有害物質を川に垂れ流していたことを突き止め、町全体が汚染されており7万人もの住民を原告団とする集団訴訟に踏み切るのです。

裁判は遅々として進まず何年もかかりますが、結果としてデュポン社は和解を行います。しかしまだ全ての和解が終了しておらず現在も継続しているそうです。

この発がん性物質というのが、フッ素樹脂加工を行う上で原材料や、製造過程において出てくる排出物だったのです。工場で作業に携わっていた多数の職員もガンで亡くなり、妊娠中に作業に携わったことから障がいをもつ子供が生まれたという事実も映像化されています。

工場からの排水が公害をもたらし、事例は多々あり、本紙63号でも取り上げた作品「MINAMATA」での水俣病も同類のもので

便利になることは良いのですがそれと引き換えに公害をもたらすというのは本末転倒であってはいけません。デュポン社に認知的な被害をもたらすことを認めなければならぬ。何十年も対策を怠っている。公害対策費を怠っている。公害対策費を生み出すわけではなく、利益を後まわしにされるのではないのでしょうか。しかし企業使命としては最優先課題です。

現在も世界のどこかでこうした工場からの排水などで公害があるのかもしれない。今の世情ではなかなかいともいって簡単には解決が難しいところでは非常に懸念がたれます。

利益優先は致し方ないにしても、自然や人に対し何をしても良いというグロバリズム主義は無くなってほしいものです。

ちなみに本作品の公害ですが、加工されたフライパンなどには影響は有りません。ただしフライパンを長時間空焚きすると物質が溶け出すそうですが、体内に摂取してもそのまま排出されるそうです。のでご安心してください。